

# 中学生 心肺蘇生学ば

## 意識確認からAED使用法まで

### 吉賀町、全校で講習会 昨年から

救命率の向上や後遺症の軽減などにつなげようと、全中学生が世界基準の救急救命法を講習で学ぶ吉賀町の取り組みが、2年目に入った。17日には、町立吉賀中の1年生20人が、地元のNPO法人「六日市ECC\*協会」の指導で、自動体外式除細動器（AED）の使い方などを学んだ。町を挙げて全中学生にAEDの使用法を身に付けさせる試みは、全国的に珍しいという。

（熊谷暢聡）



人形を使ってAEDの使い方を学ぶ生徒たち（吉賀町で）

講習は、アメリカ心臓協会が認定し、医療従事者も受けている2次心肺蘇生法（ACLS\*）の公式コース。受講者には修了証が与えられる。

普及を目指す同NPOは、「日本ACLS協会」理事を務める六日市病院（吉賀町）の谷浦博之院長が中心となって2005年に発足。各中学校にAEDが備え付けられているが、「使い方が分からない」との声があり、12年度に町立六日市中で講習を開いたところ好評だったため、13年度から全校に拡大した。

修了証は2年ごとの更新が必要になるため、新入生と3年生が受講する仕組み

にし、費用は町教委が負担する。同病院のほか、岡山県や山口県などの看護師、救急救命士、検査技師らがボランティアで講師を務める。

この日、講習は学校近くの町林業総合センターで開かれた。生徒らは3人一組で、人形を相手に、AEDの使い方を実習。買い物中に男性が倒れた—などの想定で、意識の有無確認から胸骨圧迫、人工呼吸、AED使用という一連の流れを学び、最後の試験は真剣な表情で取り組んでいた。

終了後、鏝子雄平君（13）は「これだけ長時間、救命法を学んだのは初めて。胸骨圧迫では5秒押し込む必要があることも初めて知った。万一の事態にはAEDを使って命を救いたい」と話した。

\*ECC＝Emergency Cardiovascular Care

\*ACLS＝Advance Cardiovascular Life Support